

## 世界を知り尽くした 岡村龍哉

### 岡村 龍哉の宝石・健康紀行「韓国」編 (2011)

広島空港から所謂、『5 つ星航空会社』の一つである**アジアナ航空**（スカイトラックスにより「AIRLINE OF THE YEAR 2010」に選ばれている）のゆったりとした皮シートを倒し、シャンパンを片手にすると **TATSUYA OKAMURA** は直ぐに**韓国** の **インチョン国際空港** へ到着した。日本と韓国の時差は無い。



岡村龍哉





TATSUYA OKAMURA

ビジネスクラスにゆったりと座っている **Child** は、間違いなく**セレブ**だ。(大人以上に慣れている・・・)



また、大人の座席を陣取っている **Baby** は、これまた**セレブ**だ。(キャビンアテンダントの独占サービスを受けている・・・) 他には乗客は居ない。1人に対して1人の至極のサービスだ。時間があまりにも短くて残念だ。



所要時間は、あっという間の1時間10分だ。(本当に近い!)  
午前中に家を出て、午前中にソウルへ到着だ!

ちなみに、『5つ星航空会社』は、アジアナ航空・シンガポール航空・マレーシア航空・カタール航空・キャセイパシフィック航空の5社だ。(JALとANAは、4つ星にランクされている)



今回のソウル訪問は、ズバリ、夏休みだ!!!

しかし、今では多くのファンに愛読されている『セシリシリーズ』、  
岡村龍哉の宝石紀行は休まない。(いや、もう休めない・・・)

**大韓民国**（面積：98,480Km<sup>2</sup>、人口：約 4833 万人）は、ビジネス界出身の **李明博**（イ ミョンバク）大統領 になり、ますます経済発展を遂げ、アジアのみならず世界にその存在感を示している。**首都ソウル**（面積：605.25Km<sup>2</sup>、人口：979 万人）の光景は「昨日より今日、今日より明日を」向上しようとする活気がみなぎっている。また、洗練されたファッションやスタイルには驚きを覚え（前回訪問した時よりグレードアップしている）、日本の停滞を憂いた。



余談だが、現大統領は、大阪生まれでソウル市長を経験している。

3年前に放火が原因の火事で損傷し修復中の南大門（韓国の国宝第1号）



ここが宿泊先の **ロッテホテル新館**、もちろん、31階のプライベートラウンジフロアーだ。



今回は、

「**ロッテワールド**」・「**イ・サン**」・「**トンイ**」

が観光テーマだ。



まず、初訪問の「**ロッテワールド**」（韓国のテーマパークの代表格。2007年1月から内部工事のため長期休園中だったが、2007年7月1日に「ロッテワールドシーズン2」としてリニューアルオープンした）へ。  
ロッテホテルに宿泊すると、送迎のシャトルバスが無料で利用できる。（行きも帰りも予約が必要なのでお忘れなく）



ロッテワールドでディズニーのポロシャツを着用するセンスに拍手。(意外とウケタ)



ロッテワールド自体は、特に驚きは無かったが、**ロッテグループ**への驚きは甚だしい。

**JO グループ**は規模の経済ではなく、洗練された範囲の経済を目指そう！（夏休みでも仕事のことを考える大阪系広島人 **岡村 龍哉** は本当に **JO** をこよなく愛している）

今日は、**ミヨンドン**で**ショッピング**を楽しもう！



余談だが、ソウルは、1392年に開国した朝鮮王朝が『都』に定めてから、619年間、韓国の都で在り続けている。



コリアンバーベキュー（簡単に言うと焼肉）は本当に美味しい！食べ放題の付け合せもとても美味しい。大満足だ！！（焼肉だけを食べに韓国へ訪れるのも価値がある。1時間10分で到着するのだから、「昼食は焼肉を食べにソウルへ行こう」の会話が成り立つ。パスポートは必要だが・・・）

Tatsuya Okamura の大好物は、無限の夢を語り、パートナーと夢を食すことだ。



「イ・サン」の舞台の一つ、『水原華城』へ行こう！

水原華城（スウォンファソン）は、1997年に世界遺産（ユネスコにより文化遺産として）に選ばれた。

この城は、韓国版「万里の長城」だ。

この城は、イ・サン（李氏朝鮮第22代国王・正祖 1752年10月28日～1800年8月18日）が、遷都を夢見た地だ。

番組の中でも解説されているが、老論派（ノロン派）の陰謀により非業の死を遂げた父（思悼世子）の墓を、楊州から水原の顕隆園（隆陵）に移し、その周囲に城壁や塔、楼閣や城門を築いて防護を固めた。



当時の城塞建設技術の粋を集め、そこに西洋の技術をも合わせたのは、設計を担当した朝鮮後期の実学者・丁若鏞の功績であった。華城建築には、1794年から1796年まで2年を越える月日と37万人の労力が投入された。

水原華城は老論を排除し実学を重視したイ・サンの理想都市であり、一時は華城への遷都も検討されたが、華城完成直後にイ・サンが死亡したため遷都は見送られた。



城壁の長さは、5km を越え、中国から西洋築城技術を輸入し、東洋と西洋の技術を融合させている。城郭の築造に石材とレンガが併用されている点が特徴的だ。



余談だが、水原市は、あのサムソングループの企業城下町だ。(とても活気があった)

現在放映中の「トンイ」の世界を訪れよう！(まだ放映されたばかりだから深いところまでは分からないが・・・)

トンイは実在の人物だ。イ・サン（正祖）の祖父・英祖の生母となる女性だ。卑しい身分からトップレディーとなった韓国歴史上稀に見るシンデレラレディーだ。



まずは、昌徳宮 だ！！！！

王が愛した昌徳宮は、王の衣・食・住の場で、自然環境との調和に優れ、宮殿建築と伝統庭園の原形が良く保たれた宮殿であり、ユネスコ世界遺産に登録された誉れ高い文化遺産だ。





ラストキングは、西洋文化を好み、何と、アメリカ車、『キャデラック』専用玄関まで用意した。



続いては、宗廟へ。

この宗廟へ来る頃には、温度は30度を超え、とても暑くグロッキーになった。  
(最近全く運動をしていないことに反省・・・)

宗廟は、朝鮮王朝時代の歴代王と王妃の神主を祀って祭祀を行う祀堂であり、  
これまたユネスコ世界遺産に登録された韓国固有の文化遺産だ。



ここで、岡村 龍哉の宝石紀行らしく、ジュエリータイムを。

ジュエリー七不思議の一つ、**デマントイド** を紹介しよう。デマントイドは、**GARNET GROUP** (ガーネット類) に属し、艶やかで美しい緑色の魅惑の宝石だ。

ちなみに、ガーネット類は、様々な色の 15 種類が存在する。

ここで、シンプルに 『**デマントイド**』 を説明しよう。

正式名を **DEMANTOID** (日本名：**灰鉄柘榴(ざくろ)石**，化学成分： $\text{Ca}_3\text{Fe}_2(\text{SiO}_4)_3+\text{Cr}$ ，宝石言葉：**勝利・真実・友愛・優雅**，**1月の誕生石**) と呼び、モース硬度(押し込み強度)は、**6.5~7.5** である。名前の由来は、「**ダイヤモンドのような光沢(ファイアー)を持つことから 1878年に命名された**」。「**クロム(Cr)**」が着色して、美しい緑色に輝く。(ルビー・エメラルドと同様だ) 別名を、【**ウラルエメラルド**】と呼ばれている。

纏わる **物語** としては、砂金のまじった砂の中や、熱と圧力を受けて出来た変成岩の中でデマントイドは育つ。変成岩から取り出された原石に他の鉱物が付着して、**十字形** の模様がしばしば見えることがある。そのため、**純潔** や**祈願**の象徴とされている。

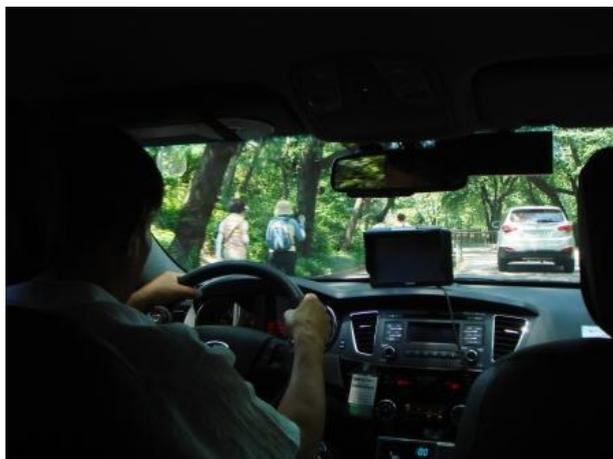
デマントイドの最大の原石は、**ロシア**で採掘された **10.4CT** の結晶だ。現在は、**アメリカ**のワシントンにあるスミソニアン博物館へ結晶形のまま展示されている。(もちろん、**Okamura Tatsuya** は見学している)

**JO** では、**ロシア産** の **デマントイド** のみを取り扱っている。

プラチナ台を使用したエレガントラインで仕上げたい逸品だ。(是非、オーダーメイドで楽しんで頂きたい)



最後に、ソウルタワーへ行って来た。(ずっと行きたかったが今までは機会が無かった) ソウルタワーは、正式名称をYTNソウルタワーと呼び、1971年完成の高さ236.7m、海拔479.7mの総合電波塔だ。ロープウェイでも登れる(南山の山頂にある)が、今回はタクシーで登った。



ちなみに、韓国人はここから先は、歩きのみ。日本人などの外国人はパスポートを見せるとソウルタワーの手前まで行ける。(パスポートはコピーでも可)



現地の方は、登山気分楽しく歩いている。



テディベアー博物館とソウルタワー展望台のセットチケットを購入。



テディベアー博物館は、意外と面白かった。トニイの世界を上手に使っていた。



ソウルタワー展望台からのソウルの眺めは格別だ。(岡村は高所恐怖症だが・・・) 展望台の中は、実にゆったりとした時間が過ぎている。(海苔巻きなどを食べている人も居る) 日本を一、世界の展望台とは異空間だ。外国人観光客がほとんど居ない。



穴場のスポットなので、是非、お勧めしたい。(帰りのことを考えるとなるべくタクシーは交渉して待たせた方が良い。2時間ほど待つて頂いてもそれほど金額は掛からなかった)



株式会社JO は、現在進行形のポジティブ企業だ。JO の現在のポジションは、コーヒーで例えると、1杯 650 円のコーヒーをクライアントにご提供している。決して安価ではないが微妙な価格帯だ。高級ホテルで飲む 1 杯のコーヒーは 1,000 円、缶コーヒーを 120 円とする。同じコーヒーでも価格が違う。当然、価格が違うのだから内容も違う筈だ。しかしながら、共通する内容も多い。少し、詳しく説明すると、

共通項を 3 点挙げると ①品種 ②嗜好品 ③量 などである。

この ③量 が、とても重要だ。

私たちの日常生活では量の増減は、価格の増減を意味している。暗黙の了解で皆が認知している。S・M・L のサイズにより価格が異なるのは常識だ。だとすると、ホテルのコーヒーは、バケツ 1 杯提供されてもおかしくはない。(実際に提供されればおかしいが・・・) しかし実際は、同じ量だ。(場合によれば少ない時すらある) 支払い時に、量に関して、不平・不満を言う人は皆無だろう。そこには、もちろん、相違があるからだ。

相違項を 3 点挙げると ①品質 ②雰囲気 ③人手の数 などである。

この ③人手の数 が、大きな違いだ。

缶コーヒーは、全て自己完結 (by myself) だ。

i. 自分でお金をいれ、ii. 自分でボタンを押し、iii. 自分で缶を取り出し、iv. 自分で缶を開け、v. 自分で缶を処分する。人手は0人である。

反面、高級ホテルのコーヒーは、

i. 案内係が席までエスコートをし (1人目)、ii. 水を運びメニューを案内し (2人目)、iii. 注文を伺い (3人目)、iv. コーヒーを作り (4人目)、v. 会計をする (5人目)。など5人程の人手が掛かっている。

これを単なる【サービス】の違いと考えるのは誤りだ。

何故なら、組織成立の3要素、

① コミュニケーション ② 貢献意欲 ③ 共通の目的

この ③ 共通の目的 が徹底されているので、高級なサービスとは？ラグジュアリーな演出は？言葉遣いは？身だしなみ・立ち居振る舞いは？お店のコンセプトは？など共通の目的（認識）が暗黙知ではなく、形式知化されている。故に、しばしば出くわす酷いお店の対応、【たらい回し】とは、一線を画す。(たらい回しも人手が多い)

ちなみに、街の喫茶店やコーヒーチェーン店などを考えて頂きたい。価格と人手は比例している。

私が650円は微妙と申し上げたのは、クライアントが、500円のコーヒーなのに650円と考えるのか、1,000円のコーヒーを650円で飲めると考えるかは紙一重だからだ。株式会社 JO は、もちろん後者だが、スクリーニング主義を掲げご支持頂くことは、弛まない変革と創意工夫が必要だ。

誤解を恐れず大胆に申し上げると、120円のコーヒーを堪能している人が、当社へ訪れても満足しないだろう。また、2,000円のコーヒーを飲んでいる人も同様だ。(対応出来る様にいずれはしたいが・・・)

所謂、ターゲットカスタマー は、500~1,000円のコーヒーを飲んでいる方々だ。

ターゲットカスタマー の決定はビジネスの成功の鍵を握っている！！！！

500円のコーヒー愛飲者には、「もう150円ご負担頂ければ次元の違う品質・サ

ービスを享受できます。」と申し上げ、1,000 円の愛飲者には、「650 円のご負担で、1,000 円と同様の品質・サービスを享受できます。」と申し上げたい。もちろん開拓者気質の岡村 龍哉は、650 円では甘んじない。クライアントからのご指導・ご愛顧、連関企業の協力、何よりスタッフと私自身の成長により、1,100 円の品質・サービスを 700 円でご提供する精進を忘れない。



あっそうそう、皆様へお知らせがあります。

2011 年 4 月より、**JO Language World** を開校しています。

英語・中国語（標準語）が中心のネイティブによるレッスンです。詳しくは、当社HP、<http://www.jewelry-okamura.co.jp> をご覧下さい。

「やっぱり英語、これからは中国語」がテーマの、わいわいがやがやのイベント多数の楽しいスクールです。語学を習得して、可能性を広げましょう！

### **JO Language World** 3つの約束

- ①生徒ではなくお客様として接します。
- ②ホスピタリティー(おもてなし)の心で、ゆったりとしたサロンの寛ぎの空間をご提供します。

③ライフアドバイスをご提供します。(語学習得により、人生が豊かになり、快適な旅行やキャリアアップ・転職を後押しします)



余談だが、**ロッテグループ**で3桁のお金を使うと、リムジンの見送りサービスがあるみたいだ。空港までのリムジン代は、通常片道2~30,000円なので、1%の顧客への還元サービスだ。これこそ本当の付加価値サービスだと思う。(とてもスマートでエレガントだ)



では、いつもの**ビジネスクラス**で帰国します。(今回はいつものドラマ・トラブルが起きなかった・・・かな?)

